

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-175	高等学校	外国語	論理・表現Ⅱ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	論Ⅱ061-902	Revised Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Hope		

1. 編修の基本方針

- ・さまざまな話題を提供しつつ、生徒がより高度な知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を養える教科書とする。
- ・学んだ語句・表現・文法事項を駆使して、より具体的に情報や考えを発信する機会を数多く設ける。
- ・段階を踏んで、英語で論理的に話したり書いたりすることができるように配慮する。

2. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	Warm-up では、さまざまな話題について関心を持ち、ペアで話し合う機会を与えた。Model Passage では Lesson ごとに異なるトピックを与え、幅広い知識と教養が身に付くように心掛けた。Use it では、それぞれのトピックについて話し合い、自らの意見を述べる機会を与えた。 Logic Focus ではそれぞれのトピックについて、自分の意見を論理的に書く機会を設けた。Activity 1～5 では、さまざまなトピックについて、複数段落の長い文章を書いたり、スピーチ、ディベート、ディスカッションを行う機会を与えた。	pp.12-13 など pp.16-17 など pp.58-73
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	本文の各所に、自主性や創造性が必要とされる場面について発信する機会を与えた。Lesson 1 では「将来の目標」をトピックとして取り上げ、1年後の自分について意見を述べるとともに、卒業後の進路や将来になりたい職業について考える機会を与えた。	pp.12-13 など

<p>第3号 正義と責任, 男女の平等, 自他の敬愛と協力を重んずるとともに, 公共の精神に基づき, 主体的に社会の形成に参画し, その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>Activity 1 では「高校生のボランティア活動の意義」をトピックとして取り上げ, 自分の意見を述べる機会を与えた。</p> <p>Activity 4 では, 「オリンピックの開催は社会の発展に貢献するか」というトピックを例として取り上げ, その他の社会問題について生徒同士がディベートする機会を与えた。</p>	<p>pp.48-49 pp.56-59</p>
<p>第4号 生命を尊び, 自然を大切に, 環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>Lesson 6 では「環境問題」をトピックとして取り上げ, 地球温暖化の原因と結果について話し合ったり, 自分の意見を述べたりする機会を与えた。</p> <p>Activity 3 では, 持続可能なファッションの必要性を例として取り上げ, 食品ロスの問題について自ら調査し, 問題についてプレゼンテーションする機会を与えた。</p>	<p>pp.28-29 pp.52-55</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し, それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに, 他国を尊重し, 国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>Lesson 7 では「文化」をトピックとして取り上げ, 他国の独自の習慣について調べ, 自分の意見とともに述べる機会を与えた。他レッスンの本文中の英文についても, 他国を尊重する記述を心掛けた。</p>	<p>pp.32-33 など</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>・紙面レイアウトを工夫し, 写真を厳選するなどして, 視覚的にも理解しやすい教科書とした。</p>		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-175	高等学校	外国語	論理・表現Ⅱ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	論Ⅱ061-902	Revised Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Hope		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・生徒が興味を持って積極的に発信できるよう、さまざまな分野からトピックを採用した。
- ・学んだ語句・表現・文法事項を駆使して、情報や考えを発信する機会を数多く設けた。
- ・段階を踏んで、英語で論理的に話したり書いたりすることができるように配慮した。

<高等学校外国語科の目標を達成するために用いた工夫>

- ①外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- ・各レッスンの **Model Passage** において, リーディング素材で実際の場面における文法表現の使用を確認しながら, トピックを導入することができるようにした。また, **Listening Task** で **Model Passage** の理解度をはかる問題を設け, 読むことと聞くことの統合的な活動ができるようにした。**Model Passage** は各 **Use it** の **STEP 2** の活動のモデル文としても利用することができ, 「読む」「聞く」「話す」「書く」が統合的につながるよう配慮した。
 - ・各レッスンの **Example Bank** の項目は, 英語の文を組み立てるプロセスの観点から配置している。論理的に表現するための土台となる英語の文構造・文法表現を学習し, 的確に理解できたかを確認するために, **Try it out** にさまざまな形式の問題を設けた。
 - ・各レッスンの **Use it** では, **Example Bank**・**Try it out** で学んだ文法表現や **Model Passage** のモデル文を参考に, 発信活動を行うことができるようにした。**STEP 1** では **Model Dialog** を音声で聞いたり, 巻末の SCRIPT で確認したりすることで, やり取りの参考になるようにした。**STEP 1** でやり取りした内容を参考にして **STEP 2** で「書く」活動につなげることで, 段階的に発信活動を行えるよう配慮した。
 - ・**Logic Focus** では, 英語の文章のパラグラフ構成について学び, 論理的な文章を書く活動ができるようにした。**Express it** の **Brainstorming** では, トピックについてグループでアイデアを交換しながら概要をまとめ, **Let's write!** で英語の文章に仕上げるという構成にした。
 - ・巻末に配置した **Words & Phrases** の語彙を参照することで, 発信活動の際に使用する語彙を増やすことができるようにした。
 - ・**Activity** においては, 「複数パラグラフの文章のライティング」「スピーチ」「プレゼンテーション」「ディベート」「ディスカッション」という, より高度な言語活動について, 具体例を用いて活動の流れを解説

し、段階を踏んで活動を行うことができるようにした。

- ・ **Build Up** においては、より豊かな表現を使って論理的に話したり書いたりするために必要な知識を学習することができるようにした。

②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(思考力・判断力・表現力)

- ・ 各レッスンの **Model Passage** のパラグラフ構成を巻末に記載することで、書き手の意図を理解し、それを参考にしながら **Use it** で自分の意見を論理的に組み立て、書くことができる機会を設けた。
- ・ 各レッスンの **Use it** において、日常的・社会的なトピックについてペアでやり取りをし、話し手の意図を的確に理解しながら、自分の意見を伝え合う機会を設けた。
- ・ **Activity** において、日常的・社会的なトピックについて、英語で要点をまとめた上でスピーチやプレゼンテーションをしたり、ディベートやディスカッションで、相手の意図を理解した上で自分の意見を伝えるなどの活動を行ったりすることができるようにした。
- ・ **Project** において、読んだ内容の概要や要点を素早く理解し、それをもとにやり取り・発表を行い、自分の意見を書く活動につなげることができるようにした。
- ・ **Build Up** において、英語で論理的に話したり書いたりするための知識を活用し、場面・状況を的確に判断してやり取りや発表をすることができるようにした。

③外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(主体的かつ対話的に学習に取り組む態度)

- ・ 目次と各レッスンの最終ページにおいて、そのレッスンの目標を提示し、そのレッスン内で学ぶことやできるようになることを意識して学習に取り組めるようにした。
- ・ 各レッスンの **Warm-up** において、トピックについてペアワークをする機会を設けて、レッスンテーマに関しての興味関心を引き出すようにした。
- ・ 各レッスンの **Model Passage** においてさまざまなトピックを扱い、異文化への理解を深めたり、日常的・社会的な事柄に興味を持って活動に取り組んだりできるよう配慮した。
- ・ 各レッスンの **Use it** において、さまざまなトピックについてやり取りをしたり、文章を書いたりすることで、聞き手や読み手などに配慮しながら、主体的・自律的に意見や気持ちを話したり書いたりすることができるようにした。
- ・ **Logic Focus** において、さまざまなトピックについて、論理的な構成で読み手にわかりやすい文章を書く活動につなげられるようにした。
- ・ **Activity** において、さまざまなトピックについて手順を踏んでスピーチやディベートなどを行い、読み手や聞き手に配慮しながら自分の意見を話したり書いたりすることができるようにした。また、振り返りシートで自己の活動の振り返りができるようにした。
- ・ **Project** において、読んだ内容について主体的・自律的に話したり書いたりする機会を設けた。また、巻

末の Project 振り返りシートを使って、自己の達成度を振り返り、次の学習につなげられるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
Lesson 1 Dear future self one year from now: How are you?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.12-13	3
Lesson 2 What school event do you like?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.14-15	3
Logic Focus 1 パラグラフの基本構成	(1)ア (2)イ (3)①アウエ ②アイ	pp.16-17	1
Lesson 3 Do you live a healthy life?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.18-19	3
Lesson 4 Who is the best athlete?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.20-21	3
Logic Focus 2 列挙・順序	(1)ア (2)イ (3)①アウエ ②アイ	pp.22-23	1
Project 1 Giving Advice	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.24-25	1
Lesson 5 Is social media safe?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.26-27	3

Lesson 6 What problems does global warming cause?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.28-29	3
Logic Focus 3 例示・追加	(1)ア (2)イ (3)①アウエ ②アイ	pp.30-31	1
Lesson 7 What are some cultural differences?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.32-33	3
Lesson 8 What can we say from the data on language learning?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.34-35	3
Logic Focus 4 比較・対照	(1)ア (2)イ (3)①アウエ ②アイ	pp.36-37	1
Project 2 Downloading Apps	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.38-39	1
Lesson 9 What if you were rich?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.40-41	3
Lesson 10 How should you use AI?	(1)ア (2)アイ (3)①アイエ ②アイ	pp.42-43	3
Logic Focus 5 原因・理由・結果	(1)ア (2)イ (3)①アウエ ②アイ	pp.44-45	1
Project 3 New Ordering System	(1)アイ	pp.46-47	1

	(2)アイ (3)①アウエ ②アイ		
Activity 1 Essay Writing 複数パラグラフからなる文章	(1)ア (2)アイ (3)①アエ ②アイ	pp.48-49	2
Activity 2 Speech スピーチ	(1)ア (2)アイ (3)①アウエ ②アイ	pp.50-51	2
Activity 3 Presentation プレゼンテーション	(1)ア (2)アイ (3)①アウエ ②アイ	pp.52-55	4
Activity 4 Debate ディベート	(1)ア (2)アイ (3)①アイウ ②アイ	pp.56-59	4
Activity 5 Discussion ディスカッション	(1)ア (2)アイ (3)①アイウエ ②アイ	pp.60-63	4
Build Up 1 名詞と冠詞	(1)ア (2)アイ (3)①アイ ②アイ	pp.64-65	1
Build Up 2 主語と動詞の呼応・時制の一致	(1)ア (2)アイ (3)①アイウ ②アイ	pp.66-67	1
Build Up 3 英語の情報構造	(1)ア (2)イ (3)①アイウ ②アイ	pp.68-69	1
Build Up 4 前置詞	(1)ア (2)イ	pp.70-71	1

	(3)①アイ ②アイ		
Build Up 5 ポライイトネス	(1)ア (2)イ (3)①アイ ②アイ	pp.72-73	1
Build Up 6 コミュニケーションのための ストラテジー	(1)ア (2)イ (3)①アイ ②アイ	pp.74-75	1
		計	60

年間配当時数 60 時間（予備時間 10 時間）

学習指導要領の内容の取扱い	図書の構成・内容	該当箇所
コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。	各レッスンにおいて、モデル文や語句を示した上で、2技能3領域において総合的な言語活動が行えるように配慮した。	pp.12-13 など
	各 Project において、「読む」「話す」「書く」の統合的な言語活動を行うとともに、自己の達成度を振り返り、次回までの能力の向上につなげられるように配慮した。	pp.24-25 など
	各 Activity において、スピーチやディベートなどのより高度な発信活動に必要な学習が段階的に行えるように配慮した。	pp.48-49 など